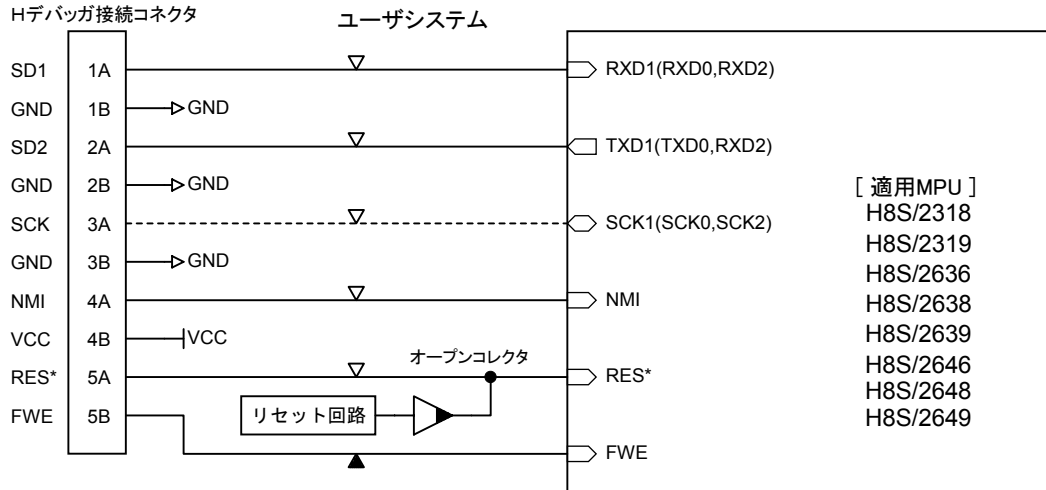


【接続例19】 H8S/2318,2319,2636,2638,2639,2646,2648,2649の場合(ブート接続)



- ▽印はプルアップ抵抗です、▲はプルダウン抵抗です。抵抗値は4.7K~22Kの範囲を推奨します。
- RXD1,TXD1,SCK1はモニタ組込後であればCPU設定によりSCI0又はSCI2のシリアル信号に変更して使用できます。(H8S/2636,2638の場合のみ変更可能です。)
- リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になるハードを設計して下さい。
- CPU動作モード(ブート・実動作)設定回路は、ユーザ(ターゲット)側で用意して下さい。
- CPU設定でターゲットI/Fを調歩同期/クロック同期の選択ができます。調歩同期側に選択した場合は、SCKを開放にして下さい。